

業界information

アーバンテクノス(株) 賛助会員

2014年1月の創設以来、アーバンテクノス株式会社は建設業を通じて地域社会の発展に貢献することを目指し、建築・設備・環境分野を中心に事業を展開してまいりました。現在では設計・施工から保守管理まで幅広いサービスを提供し、地域産業を支える様々な施設の運営をサポートしています。



当社の事業は畜産業界に支えられ、また畜産業界を支えることによって成り立っています。畜舎建設をはじめ、食肉処理施設における設備工事や保守管理、冷却冷蔵設備の設計・施工、電気設備の点検・更新、排水処理施設の維持管理など、当社が携わる業務の多くは畜産業と密接に関わっています。

安全・安心な畜産物を安定的に供給するためには、生産現場だけではなく、処理・加工施設や環境保全施設を含めた総合的な支援が必要です。当社は施設の新設や更新工事に加え、日常の維持管理やメンテナンスを通じて、生産から処理・加工に至るまで畜産インフラを支えています。

当社が携わる業務は、生産現場だけでなく、処理・流通を含めた畜産インフラ全体に及びます。それぞれの現場を理解し、多様なニーズに対応できることが当社の強みの一つです。近年は施設の老朽化への対応や環境対策、人手不足を背景とした省力化ニーズなど、畜産業を取り巻く環境も大き

く変化しています。当社では現場ごとの課題に寄り添いながら、設備の設計・施工だけではなく、長期的な視点での維持管理や更新提案を行い、事業者の皆様が安心して施設を運営できる環境づくりに取り組んでいます。

また、家畜排せつ物処理に活用される発酵促進剤「ユメック」の提案・普及にも取り組んでいます。ユメックは臭気の軽減や減容化、高品質な堆肥づくりを支援し、家畜排せつ物を資源として有効活用する一助となっています。こうした取り組みは耕種農業との連携を促進し、資源循環や環境負荷の低減にもつながっています。

さらに現在は、耕畜連携を軸としたG X(グリーントランスフォーメーション)経営の提案にも取り組んでいます。環境負荷の現状を把握し、省エネルギーや資源の有効活用を進めることで、脱炭素への対応と畜産事業者の持続的な成長の両立を支援していきたいと考えています。

当社はこれからも、畜舎建設から設備工事、維持管理、環境対策まで、畜産業に関わる幅広い分野で培った経験と技術を活かしながら、地域畜産の発展と持続可能な循環型社会の実現に貢献してまいります。



今後の予定

10月28日(水)
●畜産関連施設見学会
(東北森紙業(株)・大石産業(株))

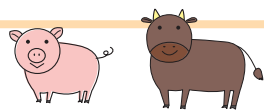
11月6日(金)
●第8回畜産グルメパーティ
(八戸プラザホテル)

1月30日(土)
●こども料理教室
(八戸ポータルミュージアムはっち)

2月(予定)
●講演会及び新年懇親会



事務局だより



今年は全国的にたび重なる豪雨や地震により大きな被害が相次いでいます。いまだ復旧が進まない地域もあり、被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、協会では今年度も子どもたちを対象に多くの畜産施設見学を実施していますが、今年初めての試みとして、学校の先生方を対象にした施設見学研修会を開催し

ました。まずは先生方に地域の畜産を知っていただき、子どもたちの教育現場で生かしていただきたいと思います。

いよいよ10月に入り、収穫の秋、食欲の秋を迎えました。毎年好評の畜産グルメパーティも開催します。青森県の美味しい畜産物で元気をいただきましょう。

業界の枠をこえ、地域に根付いた活動を目指して

Linkage

リンケージ

(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会 PR情報誌



vol.19

(2026年10月発行)

< 発行 >
一般社団法人
青森県畜産・飼料コンビナート振興協会
〒039-1164 八戸市下長二丁目2-24
下長第4オフィス2階7号室
TEL:0178-51-8868 FAX:0178-51-8876
WEB:https://linkage-aomori.jp/

< 編集 >
総務委員会

地域資源をつなぎ、青森畜産業の未来を拓く

あおもり創生パートナーズ株式会社 代表取締役社長 森 庸

貴協会ならびに会員の皆さまには、本県畜産業の振興にご尽力されておりますことに、心より敬意を表します。

青森県の畜産業は、本県農業を支える重要な基幹産業です。令和6年の県農業産出額は過去最高の4,119億円となり、このうち畜産は1,083億円、全体の26.3%を占め、全国でも上位10道県に入る規模です。県内では、酪農、肉用牛、養豚、採卵鶏、ブロイラーなど多様な畜種が生産基盤を形成し、地域経済を支えています。

一方、畜産経営を取り巻く環境は大きく変化しています。飼料や生産資材価格の変動、担い手・労働力不足、家畜伝染病や暑熱への対応、環境負荷の低減など、課題は多岐にわたります。2025年農林業センサスでは、青森県の農業経営体は23,212経営体と、2020年から20.0%減少しました。その一方、農産物販売額1,000万円以上の層は増加傾向にあり、担い手の減少と経営規模の拡大が同時に進んでいます。畜産業においても、限られた人材で生産基盤を維持し、収益力を高め、次世代へ経営をつなぐ視点が重要です。

こうした中、あおもり創生パートナーズ(ACP)は、地域の課題を個々の事業者だけのものとして捉えるのではなく、地域の産業や資源をつなぎ、新たな価値や事業へ転換することを目指しています。経営戦略、財務、人材、DX、経営承継、新規事業開発などの知見を生かし、課題整理から構想づくり、実行まで伴走することが私たちの役割です。

その象徴的な取組の一つが「耕畜連携もみ殻事業」です。稲作が盛んな津軽地域ではもみ殻の処理が課題となる一方、畜産が盛んな県南地域では、敷料として使われるおが粉の不足や価格上昇が課題となっていました。そこで、もみ殻を約3分の1に圧縮加工し、津軽地域から県南地域へ流通させる仕組みを構築しました。2022年度から青森県や事業パートナーと検証を重ね、2026年3月にACP自らが事業主体となって本格事業化しました。地域の未利用資源を別の地域で活用する、

青森県ならではの地域循環の形です。

また、畜産物の付加価値向上も重要なテーマです。ACPでは現在、畜産関係者の新たな取組に対し、自社ブランド確立に向けた計画策定を支援しています。生産現場にある強みや埋もれていた価値を整理し、消費者や取引先に伝わる形へつなげることで、価格だけではなく「選ばれる理由」をつくることが、持続可能な畜産経営につながると考えています。

さらに、今後の大きなテーマの一つが家畜排せつ物の有効利用です。「青森県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画」では、令和6年度の年間発生量は約171万トンで、令和12年度には約179万トンまで増加すると見込まれています。県南地域では堆肥の生産が多い一方、津軽地域では不足気味であることから、県も広域流通の仕組みづくりを進める方針です。ACPでも、家畜排せつ物を単なる処分対象ではなく、肥料やエネルギー等の地域資源として捉え、県南地域の事業者とともに、処理方法、需要、物流、採算性、連携先まで含めた事業化の可能性を探っています。

今後の畜産業には、生産性向上、省力化、人材確保、経営承継、飼料の安定確保、地域資源の循環、付加価値向上などを、経営全体として捉える視点が重要です。ACPは、プロクレアホールディングスグループのネットワークと、地域の現場に入り込むコンサルティング力を組み合わせ、畜産に携わる皆さまの挑戦を構想から実行まで支援してまいります。

青森には、多様な畜産の生産基盤と豊かな地域資源があります。産業や地域の垣根を越えてこれらをつなぎ、地域の課題を新たな価値へ変えていくことに取り組んでいます。ACPはこれからも、畜産に携わる皆さまとともに、青森ならではの持続可能な畜産の未来づくりに挑戦してまいります。

結びに、貴協会のますますのご発展と、会員の皆さまのご繁栄を心より祈念申し上げます。

畜産を「自分ごと」として捉える 社会科教育

— 畜産施設見学研修を通した「つながり」—

三戸郡小学校社会科教育研究会 研究部長 増渕 健



このたび、(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会様より機会をいただき、私たちは夏季研修会として総勢20名で畜産施設を見学させていただきました。受け入れてくださった事業所の皆様、事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回の研修は、小学校社会科における教材研究を主なねらいとしたものです。開催要領には、施設見学を通して、本県の畜産への理解を深め、地産地消や「食と命の大切さ」に関する食育、さらには職業としての意識づけにつなげることが目的として掲げられています。

最初に訪れた東北グリーンターミナル(株)では、八戸飼料穀物コンビナートにおいて、家畜の飼料原料となる穀物が保管されているサイロを見学しました。世界の穀物が配合飼料として北東北の家畜のえさとなり、その先の卵・鶏肉・豚肉・牛肉・牛乳などの食料生産につながっていることを知りました。続いて、(株)イチカワファームでは、八戸地域のブランド牛「八戸毬姫牛」の生産現場を見学しました。普段、食品として目にする牛肉が、どのような環境で、どのような人々の仕事によって生産されているのかを、飼育現場から学びました。今回の研修で印象的だったのは、畜産の背景に多くの人々の仕事と工夫、地域を越えた「つながり」があることです。

飼料穀物の輸入から配合飼料の供給、家畜の飼育、食肉としての流通、そして消費者の食卓まで、一つの畜産物を通して国内外の産業や人々の営みを考えることができます。これは、「社会的な見方・考え方」を働かせる教材として、大きな可能性をもつものです。また、畜産は食育という面からも重要な学習素材です。こどもたちは牛肉や牛乳、卵などを「食べ物」として見ることが多く、その背景にある家畜の命や生産者の努力を意識する機会は多くありません。だからこそ、実際の生産現場を見たり、生産に携わる方から話を聞いたりする経験には大きな価値があります。第5学年の「我が国の農業や水産業における食

料生産」では、畜産業は重要な食料生産の一つとして扱われます。こどもたちは、そこで働く人々の工夫や努力、消費者に届くまでの「つながり」を捉えることで、食料生産をより具体的に考えることができます。食料生産が暮らしを支えていることを、自分ごととして考える力にもつながります。

本研究会は、昭和38年の発足以来、地域の社会的事象を教材化し、実践的な社会科教育を追究し、地域巡検や工場・施設等の見学を通して、地域の素材を教材として捉える研修を継続してきました。近年も、工場や遺跡、地域産業の現場を訪問してきました。令和8年度は、「人々の『願いと営み』を自分ごと：問いの循環がつくる深い学び」を副題に研究を進めています。

今回の畜産施設等の見学もその歩みの延長線上にあり、「教員が現場に学ぶ」姿勢を大切にしています。社会科の授業でこどもたちが「なぜ、この地域で畜産が行われているのか」「生産者はどのような願いをもつのか」と問いをもったとき、教員自身が現場を知っていることは、授業づくりの大きな支えとなります。そこで得た学びを教材化し、こどもたちの問いにつなげることで、食料生産を自分たちの生活とつながる身近な社会的事象として捉えさせることができます。

今回の研修を通して、生産者、関連産業、教育関係者が連携し、こどもたちの学びを支えることの大切さを実感しました。これは、地域産業への理解を深めるだけでなく、食を支える人々の営みへの感謝を育み、将来の職業や地域との関わりについて考える契機にもなるものと感じています。

これからも、「人々の願いと営み」へのまなざしを大切に、本研修で得た「つながり」をこどもたちの学びへとつなげてまいります。

結びに、貴協会の益々の御発展と会員皆様の御多幸をお祈り申し上げます。



Pick Up NEWS



施設見学会

プライフーズ

7月9日、青森県立三本木農業恵拓高等学校と青森県営農大の生徒学生21名が、プライフーズ(株)細谷工場と細谷プロセスセンター(三沢市)を見学、食鳥の生産処理から鶏肉の製造出荷、鶏肉加工食品の製造までを学びました。生徒たちは新鋭設備が導入された大規模工場を見て、全国的にも業界をリードする企業がこの地域にあることを知りました。この見学会は今回で4年続いていますが、近時参加した生徒たちから同社への就職者も出てきているようです。



8月31日、三沢市立第三中学校生徒16名が、プライフーズ(株)細谷工場と細谷プロセスセンター(三沢市)を見学、食鳥の生産処理から鶏肉の製造出荷、鶏肉加工食品の製造までを学びました。学校はすぐ近くにあり生徒の家族関係者も働く工場に初めて入り、その規模と多くの新鋭機械や衛生管理に驚いた様子、そして全国を相手にするトップクラス企業という説明も聞いて地域への誇りも生まれたようでした。



東北グリーンターミナル(株)

9月3日、六ヶ所村立第一中学校の生徒先生28名が、八戸飼料穀物コンビナートの中核サイロ会社である東北グリーンターミナル(株)を見学しました。「家畜は毎日エサをあげないといけないのでお盆や正月でも完全には休めない」、「エサの原料は国内では全然足りず輸入に頼っていてアメリカやブラジルなどその時の安い所から輸入している」、「大きな施設なのに人が少なくパソコンで動かしている」…いろいろな発見があったようです。



(株)NAMIKI デーリィファーム

9月9日、六ヶ所村立立中学校2年生14名が(株)NAMIKIデーリィファーム(上北郡野辺地町)で60頭同時搾乳するロータリーパーラーを見学し牛乳がどのように生産されるかを学習しました。生徒たちは初めて見る大規模酪農施設にびっくり、質疑応答タイムでは牛の飼育や種類、仕事としての酪農の大変さ、そこに携わる人の想いやりがいなど、たくさんの質問が出て多くの学びがあったようです。



高病原性鳥インフルエンザ 防疫対策研修会

9月2日、「令和8年度高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会」を青森県養鶏協会と共催、発生リスクが高まるシーズンを前に養鶏農場管理者ら100名が参加、発生防止に向けた取り組み強化への理解を深めました。県の協力を得ながら生産者主導で開催するこの研修会は今年で5回目となります。今年はリモートで農林水産省動物衛生課担当者による昨年度シーズンの疫学調査報告も行われました。

